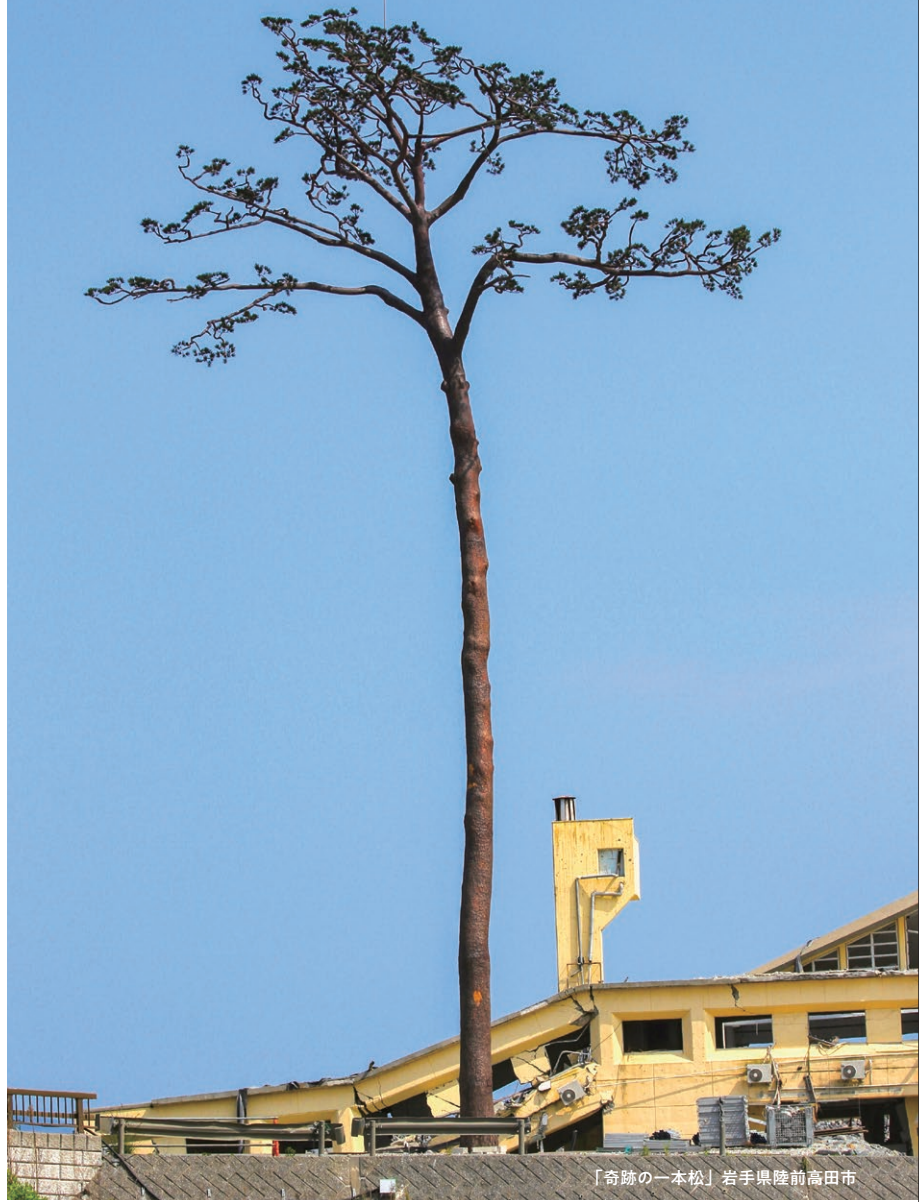


# Iwate Reconstruction Tourism

東日本大震災の復興から、  
「災害への備えと心構え」を学び、  
いまどう生きるかを見つめ直す



「奇跡の一本松」岩手県陸前高田市

## 震災を伝え、学び、未来を拓く 「復興ツーリズム」

企業・団体・教育研修旅行のご案内

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

企画・コーディネート いわて復興ツーリズム推進協議会 事務局:岩手県北バス 盛岡本社 TEL019-641-8811 FAX019-641-8844(担当:宮城)

# 東北復興から 未来を拓く学びの旅

## なぜ、いま東北に？

2011年3月11日。忘れもしない東日本大震災によって、東北地方の三陸沿岸は、甚大な被害に見舞われました。町全体の都市機能が失われるほどの大規模震災。それは、体験した人にしかわかりません。その人たちが被災体験から学んだことは、

**働くとは何か？ 幸せとは何か？  
社会とは何か？ 生きるとは何か？**

という根源的なものです。被災から復興に向かう三陸の現地に赴き、自分がその場に身を置き、そこに住む方々と出会い、対話することで生まれるさまざまな「気づき」は、“組織とは何か”“自分自身とは何か”を改めて皆さまに問いかけることでしょ。

外からの新しい風を取り込み、  
ゼロからの街づくりを行う**陸前高田市**。

民間の叡智を生かし街を創る**大船渡市**。

子どもたちが主体的に命を守る  
行動を起こした**釜石市の真実**。

**大槌町**の災害対応をめぐる組織の意思決定の問題。

地域の足として企業の使命を貫く  
**第3セクター三陸鉄道**。

古きよき三陸の風習を受け継ぎ、  
強い結束で逆境を乗り越えた  
それぞれの**地域コミュニティ**。

**文化を守り、歴史を重んじ、  
人とつながり、地域を創る。**

だれも経験したことのない震災を乗り越え、  
新たな地域づくりの挑戦を続ける現場である東北の  
三陸沿岸だからこそ、学べることがあります。

## なにを学ぶ？

災害・復興の現場に横たわる正解のない課題を前に、困難に立ち向かい奮闘する現地のリーダーとの出会いから、以下のキーワードの本質をとらえなおす機会となります。

|         |            |            |
|---------|------------|------------|
| リーダーシップ | コミュニケーション力 | 平時の心構え     |
| 行動力     | 問題解決力      | 正しさ・誇り     |
| 決断力     | 当事者意識      | 周囲への愛と感謝   |
| 組織力     | 共感         | よりよく生きる    |
| 想像力     | 使命・役割      | モチベーション など |

## なにが得られる？

- 災害への備えと心構えについて  
具体的な実践につながるヒントを得る
- 現地の方への共感と対比の中で、自分の価値観を再発見する
- 復興に向かって生きる人たちとの出会いから  
希望に満ちた人生観が磨かれる
- 命の大切さを感じ取り、日常への感謝と周囲への愛情が増す
- 人生で一番大事なことを見出し、無意識のとらわれから  
開放され、志のために挑戦し続ける勇気が沸き起こる

## コンセプトは？

4つの  
出会い

- 1 希望にあふれる人たちとの出会い
- 2 幸せをつかみとる言葉との出会い
- 3 美しさを心から感じる情景との出会い
- 4 いままで気づかなかった自分との出会い

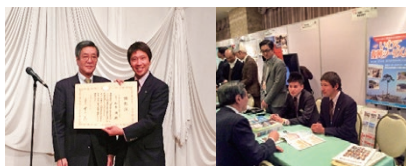
当プログラムは、  
復興庁や地方自治体の事業とも  
連携しながら推進しています。

平成25年度

復興庁「新しい東北」先導モデル事業受託

平成27年度～令和元年度

岩手県「三陸観光地域づくり企業研修旅行誘致業務」受託



「被災地の元気企業40」に選定され表彰（2015年2月8日）

これまでの  
実績などは  
こちらから





# 旅を通じ、SDGs 2030の達成を目指します。

SDGsとは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。三陸の復興現場を訪れ、災害に強い持続可能なまちづくりの取り組みにふれ、そこで奮闘する人々との対話を重ねることで相互理解が深まり、共創が生まれ、SDGsの目標が自分ごととなり、世界がより豊かな未来へとつながること。私たちは、そんな旅(ツーリズム)をデザインできるよう支援していきたいと考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



各プログラムに関連する学びのアイコンを示しています。どの目標につながる学びが得られるか、旅を選ぶ指標としてください。

## 災害を乗り越え現地で奮闘するリーダーたちの生きざまから学ぶ。

当研修プログラムでは、お客さまの研修の目的や趣旨、日程や予算に合わせ、地元のネットワークを生かして語り手をアサインし、プログラムをカスタマイズして構成・ご提案いたします。

### 宮古市



#### 渚亭たろう庵 松本勇毅さん

宮古市の震災遺構「たろう観光ホテル」で震災当日津波映像を6階から撮影。一人でも多くの方に災害の恐ろしさを伝えたいとホテルでの視聴を公開。津波防災の街田老で津波の歴史と、教訓の伝承に取り組む。

### 岩泉町



#### 岩泉ホールディングス 山下欽也さん

2016年8月、台風10号により甚大な被害を受けた岩泉町。同社も工場全壊の大きな被害を受けるが、社長の山下さんは全社員の雇用を守るのと約束し、1年1ヵ月後に再開。全国にファンの多い岩泉ヨーグルトの生産を復活、事業を再建した。

### 大槌町



#### 一般社団法人 おらが大槌夢広場 神谷未生さん

震災直後から国際NGO職員として大槌町で物資配給やコミュニティービルディングなどの緊急支援にあたり、その後大槌へ移住。1児の息子を育てながら、企業研修や海外からの視察の受入を行う。

### 大槌町



#### NPO法人吉里吉里国 芳賀正彦さん

福岡県糸島市生まれ。青年海外協力隊での海外経験を元に帰国。妻の実家である岩手県大槌町吉里吉里へ移住。震災遭遇後、避難所での焚き火の火をきっかけに、瓦礫から薪をつくり販売を始める。「恩送り」の精神で愚直に林業に勤しむ。

### 釜石市



#### いのちをつなぐ未来館 菊池のどかさん

震災当時、釜石東中学校3年生として、「釜石の奇跡」と呼ばれる避難行動を体験。県内で進学ののち、2019年4月から、自身の体験を語り継ぎ、災害から一人でも多くの命が救われることを願い、同館にてあの日の真実と教訓の伝承に取り組む。

### 釜石市



#### 民宿宝来館 岩崎昭子さん

両親が開業した民宿を20代半ばで継ぎ経営。震災の津波では、女将本人も逃げ遅れた住民を誘導する際に津波に飲み込まれたが奇跡的に生還。その後、地域の避難所としてその役割を果たす。突出した明るさとパワーで地域を牽引する。

### 釜石市



#### とうに けるべ 唐丹町花露辺地区 下村恵寿さん

当地区は生業再生と住宅再建を早期に実現した県内随一の先進事例地。住民で議論を重ね、一度は要望した防潮堤建設を翻し、住宅の高台移転を決定。当時の自治会長である下村さんは、集落の合意形成を見事に果たしたリーダー。

### 陸前高田市



#### 米沢商会 米沢祐一さん

街全体が巨大津波の海底に沈み、県内で最も大きな被害を受けた陸前高田市で、民間唯一の震災遺構として自社のビルを保存。ご家族は失いながらも、自身が助かった15mの高さの煙突の上から、災害の恐怖と命の尊さを語る。

### 陸前高田市



#### 陸前高田市市長 戸羽太さん

震災の1ヵ月前に初当選し、市長に就任。直後に震災に遭遇し、妻を亡くす。その後、県内一被害の大きかった自治体の復興に首長として邁進。民間経験者としての発想と人脈を生かし、外部とのつながりをつくり、新しい街づくりに挑む。

### 陸前高田市



#### 陸前高田市 防災対策監 中村吉雄さん

兵庫県芦屋市出身。1995年阪神淡路大震災により甚大な被害を受けたことを契機に都市防災を学ぶ。震災後の2013年から県職員として陸前高田市に赴任し現職。陸前高田オリジナルの避難マニュアルなどを作成し防災に取り組む。

# 1

研修プログラム

# リーダーシップ・マネジメント研修

## 得られる効果

- ✓ 「だれのため」「何のため」を問い、自社・自組織および自身のあるべき使命を考える
- ✓ 正解が無い課題に対し、決断することの奥深さを知る
- ✓ 自身の中にある無意識のとらわれ(アンコンシャスバイアス)に気づき、自身と組織の成長につなげる
- ✓ 逆境に立ち向かう人々の強さにふれ、自身の持つ底力や可能性を呼び覚ます

## 主な対象

経営幹部/管理職/職場リーダー/若手・中堅の次世代リーダー

## プログラムの特徴

- 現地でリーダーシップを発揮した住民たちとの対話を通して、自分らしいリーダー像の確立を目指します。
- 語り手としての現地住民には、行政・民間・NPOなど、老若男女多様なリーダーを登用します。
- 一日の終わりには必ず振り返りの時間を設け、各々の気づきを他者と共有し、深めることを重視します。
- リーダーシップ育成に長けた研修コンサルタントのファシリテーションも付加することができます。

関連する SDGs ▶



## 2泊3日 モデルコース

### 地域の復興に挑み続けるリーダーに出会う①

|         |         |  |
|---------|---------|--|
| 1<br>日目 | 研修①【視察】 | 貸切バスにていわて花巻空港/一ノ関駅 発<br><b>東日本大震災津波伝承館</b><br>【いわてTSUNAMIメモリアル】および<br><b>民間の震災遺構「米沢ビル」</b> |
|         | 研修②【講話】 | <b>有事の意思決定と</b><br><b>ゼロから創るまちづくりへの覚悟</b><br>[語り手] 陸前高田市長 戸羽 さん                            |
|         | 研修③【講話】 | <b>地元の企業による地域復興の使命</b><br>[語り手] 株式会社八木澤商店 河野通洋さん<br>宿泊施設着、一日の振り返り                          |

### 地域の復興に挑み続けるリーダーに出会う②

|         |                 |   |
|---------|-----------------|---|
| 2<br>日目 | 研修④【講話】         | <b>女性リーダーが発揮する地域復興への熱意</b><br>[語り手] 民宿宝来館女将 岩崎昭子さん  |
|         | 研修⑤【視察・講話】      | <b>当時の中学生が語る3.11の真実と</b><br><b>教訓伝承への願い</b><br>[語り手] いのちをつなぐ未来館 菊池のどかさ<br>大槌町旧役場庁舎跡にて黙祷     |
|         | 研修⑥【視察・ワークショップ】 | <b>「決断のワークショップ」で学ぶ</b><br><b>意思決定場面での葛藤と決断</b><br>[案内] (一社)おらが大槌夢広場 神谷未生さん<br>宿泊施設着、一日の振り返り |

### 自分自身のリーダー像を考える

|         |                   |   |
|---------|-------------------|---|
| 3<br>日目 | 研修⑦【薪割りボランティア・講話】 | <b>名もなき住民による誇りある暮らし</b><br>[語り手] NPO法人吉里吉里国 芳賀正彦さん<br><b>リフレクションワークショップ</b><br>(座禅による三日間の内省と振り返り)<br>新花巻駅/いわて花巻空港にて解散 |
|---------|-------------------|---|

## 受講者の声

- あきらめてしまいがちな状況でも、熱意を持ってあきらめずに行動することで、周りからの支援や応援を力に進むことができることを実証されていた。人を導く力があることも、リーダーとして必要なスキルだと感じる。
- 「未来志向」「創造的思考」に欠けているとの指摘を受けて悶々としていたが、未来を見据えて前に進むということをお会いした方たちが体現されていて、非常に強いインスピレーションを受けた。



※訪問の目的や予算、日程や時期に応じて、上記をモデルに視察先や語り手を調整してご提案いたします。



# リスクマネジメント研修

## 得られる効果

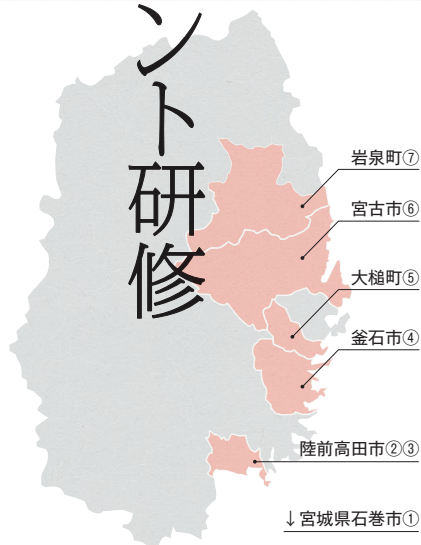
- ✓ 担当者の防災への意識向上や自覚を促す
- ✓ 正解が無い課題に対し、決断することの奥深さを知る
- ✓ 緊急時の災害対応の知見を学び、事業の存続や従業員・家族・地域を守るためのポイントを知る
- ✓ それぞれの団体における危機管理マニュアルの策定に発展させる

## 主な対象

防災危機管理の担当者

## プログラムの特徴

- 震災当時の対応について、当時の体験談をもとに、災害対応や教訓について実践的な知恵を学びます。
- 企業規模や業種にあわせた訪問先を調整いたします。
- 企業の防災のみならず、家庭の防災・地域の防災など、自助・共助・公助の役割の違いと連携についてとらえます。
- 防災の専門家も登用し、現場対応のみならず、平時の心構えなどについても学びます。



2泊3日 モデルコース

関連する SDGs ▶



| 過酷な災害の現実を知る           |  |
|-----------------------|--|
| 1<br>目<br>目           | <p>研修①【視察・講話】</p> <p>貸切バスにて仙台国際空港／仙台駅発</p> <p><b>石巻市立大川小学校跡地にて</b><br/><b>小さな命の意味を考える</b></p> <p>[語り手] 大川伝承の会 佐藤敏郎さん</p>                   |
|                       | <p>研修②【視察】</p> <p><b>東日本大震災津波伝承館</b><br/><b>「いわてTSUNAMIメモリアル」</b></p>  |
|                       | <p>研修③【講話】</p> <p><b>壊滅した街が取り組む災害への備え</b><br/><b>「陸前高田市リスクマネジメントプログラム」</b></p> <p>[語り手] 陸前高田市長 戸羽太さん<br/>および 防災対策監 中村吉雄さん</p> <p>宿泊施設着</p> |
| 災害と復興における、判断と決断の違いを知る |  |
| 2<br>目<br>目           | <p>研修④【視察・講話】</p> <p><b>住民主導のまちづくりを実現した</b><br/><b>地域コミュニティ</b> とうに けるべ</p> <p>[語り手] 釜石市唐丹町 花露辺地区<br/>下村恵寿さん</p>                           |
|                       | <p>研修⑤【視察・ワークショップ】</p> <p><b>防災時の行動を疑似体験する</b><br/><b>ケーススタディを用いた災害対応ワークショップ</b></p> <p>[案内] (一社) وراが 大槌夢広場 神谷未生さん</p> <p>宿泊施設着</p>       |
| 企業の経営者の事例から学ぶ         |  |
| 3<br>目<br>目           | <p>研修⑥【視察・講話】</p> <p>宮古市田老地区内防潮堤等見学</p> <p><b>災害に立ち向かう街づくりと住民の思いを知る</b></p> <p>[語り手] 渚亭たろう庵 松本勇毅さん</p>                                     |
|                       | <p>研修⑦【講話】</p> <p><b>未曾有の台風被害からの企業防災を学ぶ</b></p> <p>[語り手] 岩泉ホールディングス 山下欽也さん</p> <p>盛岡駅／いわて花巻空港にて解散</p>                                      |

## 受講者の声

- 現地・現物・現認が基本だと痛感した。映像で勉強するのはリアリティが違って、さまざまな方と話をできるのがたいへん貴重であった。
- 人間が考え対応してきたハード面には限界があり、ソフト面で人類が自然と共存する知恵を社会に生かしていく時代が到来していると感じた。



※訪問の目的や予算、日程や時期に応じて、上記をモデルに視察先や語り手を調整してご提案いたします。

# 3

研修プログラム

## イノベーション研修 (地方創生・CSV等新規事業開発)

### 得られる効果

- ✓ 地方の社会課題の現場を知るとともに、その解決に向け取り組む人々にふれ、企業における事業を通じた社会貢献と社会課題解決のMindset(CSV: Creating Shared Value)を実践例から学ぶ
- ✓ SDGsの理念達成に向けて地方の現場で取り組む実践例にふれ、概念理解を深める
- ✓ 新しい事業を生み出すアイデア力、システム思考、イノベーション意識の向上を図る

### 主な対象

若手・中堅社員／新規事業開発部署社員／CSR部署社員／インターンシップ学生

### プログラムの特徴

- 震災を通して加速し顕在化した高齢化、過疎化、産業衰退などの社会課題に立ち向かう人々の実践を、講話だけでなく対話、座談会、フィールドワークなどを通して学びます。
- クリエイティブな発想を広げるために、現地の方々とのディスカッションや社員同士の対話を重視しています。

前泊型1泊2日  
モデルコース

関連する  
SDGs▶



前泊

東京駅発 +++ (東北新幹線) +++ 一ノ関駅着  
各自宿泊施設着

### 地方にある地域課題の解決に向けた取り組みを知る

貸切バスにて出発

#### 研修①【視察】

**東日本大震災津波伝承館**  
**【いわてTSUNAMIメモリアル】**  
**および民間の震災遺構「米沢ビル」**

1  
日目

#### 研修②【講話】

**SDGsに取り組む陸前高田の進める復興まちづくり**  
[語り手] 陸前高田市市長 戸羽太さん

#### 研修③【対話・交流】

**社会課題の現場の取り組みを通し、CSVを考える**  
[内容] 事業実践の説明およびディスカッション  
実践例1) 株式会社 八木澤商店  
実践例2) ロツツ株式会社  
実践例3) 一般社団法人 マルゴト陸前高田

宿泊施設着

### 持続可能な地域づくりの実践から学ぶ

釜石鶏住居復興スタジアム見学

#### 研修④【対話・交流】

**オープンシティ釜石の現場から**  
**ベンチャーマインドを学ぶ**

実践例1) 一般社団法人 ユナイテッドグリーン  
実践例2) 一般社団法人 根浜MIND  
実践例3) 釜石地方森林組合  
実践例4) 株式会社 かまいしDMC

2  
日目

#### 研修⑤【視察・講話】

**官民連携の新たな地方創生の取り組み**  
[案内] 一般社団法人 遠野みらい創りカレッジ  
または、Next Commons Lab 遠野

新花巻駅／いわて花巻空港にて解散

### 受講者の声

想像以上に現地訪問は心に突き刺さるものがあり、語り手の皆さまの想いがいまでも熱く胸に残っている。忘れてはいけない、伝えていくべきものがここにあるということを感じ、また事業の原点は社会をよりよくしようとする思いであることを再認識させられた。



※訪問の目的や予算、日程や時期に応じて、上記をモデルに視察先や語り手を調整してご提案いたします。

# 4

研修プログラム

# アクティブラーニング型教育旅行

## 得られる効果

- ✓ 想定外の災害の恐ろしさ、命を守ることの尊さ・大切さについて考える
- ✓ 逆境から立ち上がる人々の思いにふれ、自己の生き方・役割について考える
- ✓ 防災減災の意識の向上を図り、自分が助かる、そして他人を助けるための行動の仕方を身につける

## 主な対象

小学校・中学校・高校等における教育研修旅行(修学旅行・校外学習等)

## プログラムの特徴

- アクティブラーニングを意識した内容を構成しています。  
バス車中での映像視聴によるマインドセット、現地の方のご案内によるフィールドワーク、対話形式のワークショップなどにより、互いの思いを共有しながら進めます。問いを立てながら、頭と体をフルに使った設計をいたします。
- 地元の企業ならではの人脉を活用し、復興や地域づくりに前向きに取り組んでいる「ひと」をクローズアップ。「ひと」の思いや生きざまから学び、自分のくらしや行動を見つめ直す内容を構成します。

関連する SDGs ▶



## 2泊3日 モデルコース

### 震災を知る・復興を感じる

|     |                 |  |
|-----|-----------------|--|
| 1日目 | 研修①【視察・ワークショップ】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災津波伝承館</li> <li>・【いわてTSUNAMIメモリアル】および【民間の震災遺構「米沢ビル」】</li> <li>・陸前高田市役所 防災対策監による防災ワークショップ</li> </ul> テーマ：「陸前高田市から学ぶ災害への備え」 |
|     | 研修②【視察】         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・三陸鉄道「震災学習列車」乗車 盛 ++ 釜石</li> </ul> 宿泊施設着、一日の振り返り  |

### 防災を学ぶ・自分の命について考える

|     |              |   |
|-----|--------------|---|
| 2日目 | 研修③【体験】      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・【いのちをつなぐ未来館】見学と【当時の中学生と疑似避難体験】</li> <li>・釜石纏住居復興スタジアム見学</li> <li>・民宿宝来館女将の講話とランチ</li> </ul> |
|     | 研修④【ワークショップ】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・【(一社)おらが大槌夢広場による【決断のワークショップ】】</li> </ul> テーマ：「そのとき、あなたはどうか決断しますか」                           |
|     | 研修⑤【体験】      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・田老地区で震災遺構見学と津波避難シミュレーション</li> </ul> テーマ：「ミッションをクリアして、避難場所を目指そう」                             |

宿泊施設着、一日の振り返り

### 地方創生・観光再生を学ぶ

|     |         |  |
|-----|---------|--|
| 3日目 | 研修⑥【体験】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リアス式の地形を学ぶ【北山崎ネイチャートレッキング】or【漁師の船で沖に出る「サッパ船アドベンチャーズ」】</li> </ul> |
|     | 研修⑦【体験】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要無形民俗文化財「鶴岡林楽」鑑賞</li> </ul>                                     |
|     | 研修⑧【視察】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・久慈琥珀博物館見学&amp;三日間の振り返り</li> </ul> 盛岡駅／いわて花巻空港にて解散                |

## 受講者の声

この震災は他人ごとではないと思っていたが、今回の研修に参加してみてもまだまだ自分ごととしてとらえていなかったことに気づいた。自分と同じ時間の中で、どれだけの違う経験をして、どのような思いをもって生活しているのかと思うと、なんとも言えない気持ちになる。それでも前を向いて、復興へと頑張る現地の皆さまの思いを、私自身が自分ごととして伝えていく一人になりたい。



※訪問の目的や予算、日程や時期に応じて、上記をモデルに視察先や語り手を調整してご提案いたします。



# ACCESS GUIDE

アクセスガイド



- 高速道路等
- 一般国道
- 東北新幹線
- 鉄道 (JR線)
- 鉄道 (私鉄)
- 大船渡線BRT (JR線)

### 鉄道 Train

|         |       |
|---------|-------|
| 北海道新幹線  | 東北新幹線 |
| 新函館北斗   | 新青森   |
| 約65分    | 約50分  |
| 東京      | 盛岡    |
| 東北新幹線   |       |
| 約2時間10分 |       |

JR東日本 <http://www.jreast.co.jp/>  
 三陸鉄道 <http://www.sanrikutetsudou.com/>  
 IGRいわて銀河鉄道 <http://www.igr.jp/>

### 空路 Air

|     |                    |         |
|-----|--------------------|---------|
| 札幌  | JAL 約55分           | いわて花巻空港 |
| 名古屋 | FDA 約70分           |         |
| 大阪  | JAL 約85分           |         |
| 福岡  | JAL 約120分          |         |
| 台北  | FDA (名古屋乗継便) 約200分 |         |

JAL (日本航空) ☑0570-025-071  
 FDA (フジドリームエアラインズ) ☑0570-55-0489  
 タイガーエア台湾 ☑03-6455-0242

### 自動車 Car

NEXCO 東日本お客さまセンター  
 ☑0570-024-024  
 PHS・IP電話 ☑03-5338-7524

冬期閉鎖路線、通行規制などの路線状況、レンタカー、復興道路工事状況は以下をご覧ください。

- 岩手県道路情報提供サービス <http://www.douro.com/>
- 岩手県レンタカー協会 <http://www.iwarekyo.sakura.ne.jp/>
- 復興道路・復興支援道路情報サイト <http://www.thr.mlit.go.jp/road/fukkou/>

### バス Bus

●岩手県北バス <http://www.iwate-kenpokubus.co.jp/>



※掲載されている地図の位置や縮尺、所要時間などはおよその目安です。  
 ※2020年3月現在、三陸沿岸道路は一部未通の区間があります。復興道路工事の状況も日々変わっていますので最新情報をご覧ください。

## お申込・お問合せ いわて復興ツーリズム推進協議会

岩手県沿岸地域を中心とした自治体・企業・NPO等産学官の連携により、持続的な交流人口の拡大と安定化による当地域経済の活性化と雇用創出の実現に資することを目的とし、平成25年9月に設立された任意団体。具体的には、右記の事業を展開する。

- 防災減災のための啓蒙活動及びそれに伴うツーリズムの受入
- 復興現場にある付加価値の高い地域資源(学びのコンテンツ)の開発
- 定期会合等による三陸沿岸の地域連携の推進

詳細はQRコードからご確認ください。

